

2020年3月27日

各 位

マークテック株式会社
代表取締役社長 西本 圭吾

株式会社風技術センターの株式取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、株式会社風技術センター（東京都墨田区）の全株式を取得し、当社の連結子会社とする旨、決定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 株式取得の目的

株式会社風技術センターは、建築、土木、機械、環境、エネルギーなどに広く関わる風先案内人として、「人にやさしい快適な都市環境づくりに貢献します」をモットーに、都市における風工学の諸課題の実験・評価に欠くことのできない風洞実験装置の設計・製作及び実験模型の制作を通じて、人にやさしい、住みやすい都市環境創りに貢献するべく、事業活動に取り組んでいる製造会社であります。主に建築分野や機械分野で使用する風洞実験装置や、その実験用模型をお客様のご要望に合わせて作り込む製造サービスを得意としており、日本の高層建築物の歴史と共にメーカーとしての実績を重ね、実験者・研究者の方々の多様なニーズに応え続け、自然と調和する快適な都市環境づくりを支えております。近年は専門家による研究の深まりや、自然環境の変化もあり、突風や竜巻、雪などの厳しい環境を再現する装置の製造にも取り組んでおります。また、実験模型に関しましては、高度化・複雑化する建物や構造物を実験目的に合わせて、従来の職人技と3Dプリンター等のテクノロジーを駆使した制作に加え、今後のデジタル化の流れに沿った提案を行っております。更には、スポーツ及び人間工学の分野においても、競技環境を再現するために風洞実験装置を用いる、あるいは実験のためにスポーツ選手の模型が必要となるなど、風洞関連市場が拡がりを見せております。

当社は、「品質保証を通して社会に安全と安心を提供する」を企業理念とし、「品質保証を科学するモノづくり集団」として、非破壊検査事業、印字・マーキング事業に次ぐ第三の事業の柱構築のための事業構想を考えてまいりました。具体的には、30年先をも見据え、新たにM&Aを中心とした、資本提携、業務提携、技術提携等による「品質保証に関連する技術力ある中小製造企業の受け皿＝技術承継事業」を構築するという戦略的なビジネスモデルに取り組んでいきたいと考えております。当社グループが少しでも多くの「技術力ある中小製造企業の技術」を承継することで、技術力があるにも拘わらず、後継者不在等により事業継続が危ぶまれる中小製造企業の雇用を確保しつつ、独自の技術、事業を継承し、後世に残すことが可能になると考えております。

上述の品質保証に関連する技術継承事業の第一弾として、2018年8月、本田工業株式会社を子会社化することにより、動風圧・断熱・風洞試験装置の設計・製造等の技術承継を実現いたしまし

た。本田工業株式会社は、『試すこと、感じることを科学する』をモットーに、お客様の研究開発環境確立のためにトータル・ソリューション・パートナーとなり、豊かで、快適な社会の実現に貢献します。」を企業理念とし、動風圧試験装置等の建材関連試験装置や風洞システム等様々な試験装置の設計・製作に関する独自技術に強みを有し、多くのお客様からご支持をいただいている製造会社であります。

今般、株式会社風技術センターの子会社化により、株式会社風技術センターがこれまで培った技術力と人材を当社グループ内に取り込むだけでなく、本田工業株式会社との様々なシナジー効果によって、各種風洞実験装置及び実験模型の制作販売における高い国内シェアを短期間で獲得できます。さらに、当社グループとしましても、持続的な成長、企業価値の更なる向上に資すると判断し、株式会社風技術センター株式をグローバルスカイ株式会社（東京都港区）から取得するに至りました。

また、グローバルスカイ・グループは、「未来を創り、世界とつなぐ」をグループ理念に掲げ、人・企業・コミュニティの成長と国際化に貢献するソリューション開発集団として、主に教育事業を展開しております。今般、より一層教育事業に経営資源を集中させる戦略の一環として株式会社風技術センター株式を当社へ譲渡する経営判断に至りました。一方、中小企業の設計・エンジニア人材の高齢化や技術承継の困難さが浮き彫りになり、若手設計・エンジニア人材が圧倒的に不足しています。かたや設計・エンジニアを目指す若手世代は、「設計・エンジニアの経験値をどのように積み上げて行けるか」、「即戦力、あるいは次世代の設計・エンジニア・CTO（Chief Technology Officer の略で、最高技術責任者）人材として活躍する場があるのか」、という疑問を抱えています。そこで、グローバルスカイ・グループがこれまで培ってきた教育・研修プログラムのノウハウを活用し、マーケティンググループのみならず、親会社であるアルコニック株式会社及びそのグループ各社、あるいは、事業構想大学院大学（専門職大学院）（東京都港区、田中里沙学長）及び同附属機関である事業構想研究所（東京都港区、岸波宗洋所長）、更には 2020 年 4 月に開校する情報経営イノベーション専門職大学（東京都墨田区、中村伊知哉学長）などとも連携し、如何に設計・エンジニアとしての経験値を積み上げることができるのか、という経験価値にフォーカスした設計・エンジニア・CTO 養成プラットフォームをローンチするカタチで、設計・エンジニア・CTO 人材育成という社会的課題の解決にも取り組むことを模索してまいりたいと存じます。

当社は 2020 年に創立 65 周年を迎えることができましたが、上述の技術継承を通じた「風・環境試験事業」という第三の事業の柱となる新事業を展開し、SDG's 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」及び SDG's 12「持続可能な消費と生産パターンを確保する」【注 1】という社会課題を解決する一助となることで、100 年さらにそれ以上続く「品質保証を科学するモノづくり集団」として社会に安全と安心を提供する企業であり続けてまいりたいと存じます。

【注 1】成長にあった持続的消費を続けるために Reduce（削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再生）するサーキュレーションエコノミー（循環型経済）を重視する。

2. 株式取得をする会社の概要（2019年12月31日現在）

(1) 商号	株式会社風技術センター
(2) 所在地	東京都墨田区墨田四丁目8番7号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 永田 幸
(4) 事業内容	風洞装置及びその周辺機器の設計、製造及び販売 測定機器の設計、製造及び販売 風洞実験用模型、展示用模型の制作及び販売
(5) 資本金	45,000千円
(6) 設立年月日	1981年（昭和56年）11月13日
(7) 主な取引先	青山学院大学、神奈川大学、金沢大学、金沢工業大学、九州工業大学、京都大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、東京工芸大学、東京理科大学、東北大学、東北工業大学、徳島大学、新潟工科大学、日本大学、明治大学、山口大学、横浜国立大学、石川工業高等専門学校、建築研究所、電力中央研究所、日本スポーツ振興センター、UR都市機構、労働安全衛生総合研究所、東京都、安藤ハザマ、鹿島建設、清水建設、大成建設、竹中工務店、東急建設、戸田建設、飛鳥建設、西松建設、前田建設工業、三井住友建設、アール・アイ・エー、梓設計、NTTファシリティーズ、久米設計、JR東日本建築建設、日建設計、日本設計、三菱地所設計、安井建築設計、山下設計、IHI、アズビル、オリックス・レンテック、風工学研究所、セントラル硝子、ベターリビング、三井造船

3. 株式取得の相手先の概要（2019年12月31日現在）

(1) 商号	グローバルスカイ株式会社
(2) 所在地	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー33階
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 永田 幸
(4) 事業内容	グループ会社の経営管理 (傘下にグローバルスカイ・エデュケーション株式会社等)
(5) 資本金	50,000千円
(6) 設立年月日	2012年（平成24年）6月15日

4. 新代表者（予定）及び株式譲渡予定日

(1) 新代表者の役職・氏名	代表取締役社長 西本 圭吾
(2) 株式譲渡予定日	2020年（令和2年）3月31日

以上